

十九年八月二十三日（八月二十三日付）

内閣官庁總務課長

宮内大臣官庁庶務課長宛

本日地方長官會議ニ於ケル内閣總理大臣訓示要旨別紙ノ通一部參考ノ為送付ニ及ビ候

昭和十九年八月二十三日

本件ハ外部ニ發表セシモノ

に於ける内閣總理大臣訓示要旨

ト異レリ、取扱注意ヲ要ス。

言

難に際會せる秋、不肖圖らすも乏しきを以て大命を國政變理の重任に承けましたが、固より苦難の陣頭に立ち、一億同胞諸君と共に最善を盡して事に當り、誓つて聖慮に應へ奉らむことを期して居ります。茲に就任後第一回の地方長官會議を開催し、各位の壯容に接するに方り、時局下當面の急務なりと思惟する要項と之に對處すへき着眼に就き所懐を披瀝して、各位の積極的協力と獨創的實踐とを要望するものであります。

十九年八月二十三日（八月二十三日付）

内閣官庁總務課長

官内大臣官庁庶務課長宛

本日地方長官會議ニ於ケル内閣總理大臣訓示要旨別紙ノ通一部參考ノ為送付ニ及ビ候

昭和十九年八月二十三日

地方長官會議に於ける内閣總理大臣訓示要旨

前 言

眞に非常重大なる國難に際會せる秋、不肖圖らするも乏しきを以て大命を國政變理の重任に承けましたが、固より苦難の陣頭に立ち、一億同胞諸君と共に最善を盡して事に當り、誓つて聖慮に應へ奉らむことを期して居ります。茲に就任後第一回の地方長官會議を開催し、各位の壯容に接するに方り、時局下當面の急務なりと思惟する要項と之に對處すへき着眼に就き所懐を披瀝して、各位の積極的協力と獨創的實踐ことを要望するものであります。

戦局は今や速かに國力を結集して敵を撃破することを要請して居ります。即ち敵は屢次に互る作戦の小進展に氣傲り、且つ其の誇さする豊富なる物量を携へて必死の總反抗を繰返し、此くして敵が「マリアナ」諸島の一角を其手に収めましたる今日に於ては、敵が將來其主攻撃方面を何れの方向に選定するにせよ、我が本土に對する空襲は今後愈々熾烈を加ふるに至るであらうのみならず、我が本土上陸の機會をも窺ふことあるべきを豫想せねはなりません。

繼りて戰場第一線に於ける皇軍將兵其他同胞の活動を觀まするに、嘗て全員玉碎を豫想せし「ガダルカナル」島に今尙殘存する僅少なる將

兵が、敵の舟艇を奪ひ辛ふして「ブーゲンビル」島に到達しなからも、
軍需糧食の補給を受け軒昂として更に「ガ」島に引返せるか如き、其
鬪魂の烈々たる感激の涙なくしては聽くこゝか出来ませぬ、又「サイ
パン」「テニアン」及大宮島に於ては將兵が最後の玉碎を賭して突撃
して居るはかりてなく、一般同胞たる老若男女迄が降伏よりも死を選
むて自決しつゝあります、我等一億は此貴き同胞の最後に對し心から
合掌しなからも、何さしても湧き出つる涙と怒さを禁し得ないのであ
ります。

抑も一億皇國臣民の日本精神より發露する鬪魂と氣魄とが前述の通
りてゐるにも拘らず、何か故に我が戦勢昂らすして今日の如き國難を

招徠したのであらうかに付考察するに、畢竟是皆我等銃後の生産に従事する同胞の責任であると言ふても過言ではありません、蓋し我等銃後同胞の多くは、大東亞戦争に於ける緒戦の成功に酔ひ、大東亞は緒戦に於て既に米英の桎梏より開放せられ、大東亞の建設既に其の緒に就けるものごなし、所謂治に居て亂を忘れず必然豫期すべき敵の總反抗に對し、勤勞と技術と資金と物量の總動員實施を緊張の裡に進むることの不十分であつた結果に外ならぬものと斷せざるを得ぬからであります。

我等は惟神の大道に基き、神の生める世界は、己れのみ利せむとする唯物的大國の壟斷に委すべきにあらずして、諸國家諸民族をして各

其所を得しめむとする理念に依りて整理せらるべきは、今更申す迄も
ありませぬ、されは此理念實現の中樞をなす皇國日本こそは、現人神
にまします 天皇を中心に仰ぎ奉りつゝ、天壤と與に無窮でなければな
らぬ譯であり、而して現時局下此皇國を天壤無窮たらしむるの途は、
唯非道米英の迫害に對し現大東亞戰爭を勝ち抜く一筋丈に存して居る
のであります。

大東亞戰下緊迫せる現時局を勝利を以て打開するの途は、戦力化し
得る限りの國力を傾け而かも陸海が一丸となりて決戦すべきことを第
一義と致しますか、用兵作戰の妙と勇猛果敢なる斷を以て戦はるへ
き此決戦をす愈々有效なる勝利あらしむる爲には、一億同胞の必勝
信念に基き戦意の昂揚に依り支援すべきこと亦頗重要であります、然

し此精神力は各國家組織の上に効率的且つ犠牲的なる勤勞となつて具
現し、嶄新卓抜なる技術の發揚と、緊急不可缺なる資金の支出と、精
巧多量なる軍需の増産に結果せねはなりません。今日迄に於け
る戦争経過の切實にして貴重なる教訓であるを謂はねはなりません。
特に決戦は迫つて居ります。豫期すべき敵の空襲に依り我が生産機
關が大なる損害を蒙らざる以前に於て敵を破らねはなりません。徒ら
に權限の争議に走り、或は法規の末節に拘はり、又過去の行掛り等に
因はれて時を浪費するか如きは、今や假借すべからざる行爲であるを
謂はねはなりません。時の活用こそ現下重要なる事項であることを銘
記せねはなりません。

三、國體護持

時局は今や烈々たる戰意を昂揚し飽く迄も戦ふの決意を必要と致して居ります、抑も萬邦共榮を世界政策の理念とする皇國日本か、萬古天皇を仰ぎて君國君民不二一体と爲り、精神物質兩面に亘る社會の進運を悠久に遂行せねばする世界無比の國體を、飽く迄も護持せねばならぬことは、今更贅する迄もありません。

大東亞戦争か、天地神明の加護に依り前述の公明正大なる理念の進展途上、非道米英の強力に阻所となり、諸國家諸民族の幸福の爲、將又皇國國體擁護の爲、止むに止まれず勃發致しました事態の消息に關しましては、聖勅の昭示せらるゝ所であり、今や如何なる苦難を突

破しても、戦を勝ち抜くことのみか、國體を護持すべき唯一の途
ありまして、世上若し皇國國體の本義を辨ふる所淺く、又非道米英の
残忍飽くなき非望乃至は崇高無比なる皇國國體を破壊せむとする恐る
へく唾棄すべき赤化思想の暗躍するをも顧慮せず、漫りに安易に就か
ねばを企圖して、或は和平論を振り翳し、或は勤勞精神の發揮を阻
害するか如き存在に對しては、強力なる監督を要すると同時に、官民
を問はず處事依然舊套に泥み、其決戰化しあらざる部面に對し、速に
是正を加へられねばことを要望致します。

特に戰時下に免れ難き歸趨として、食糧其他生活必需品の不足入手
難、交通の不便等に伴ひ、民心自ら陰鬱不安に陥り、環境打開の爲焦

躁感に趨り、終には道義の頹廢を來す等、眞に寒心すべき傾向の存在を否定し難き實狀は、御互の怒力に依り速かに芟除改善し、一般をして明朗潤達にして而かも勇んで決戦生活の覺悟を固め、忍苦耐難の裡旺盛なる敵愾心を藏し、積極業に勵むの風あらしめねばならぬ。此事たる一見至難の様にも考へられますか。一度國難に直面する時一億恩怨を忘れて鐵石の團結を堅ふするは、皇國臣民の古來美風とする所てあります。我々にして若く能く創意工夫し、條規の許す範圍に於て、實狀に合せざる統制の行過ぎたる部面等を是正すると共に、同胞中堅層を主体とする國民運動の強力なる活動と相俟つて前述時局下當面の急務に關し、懇切叮嚀に諄々として説示し、國難の眞諦と之を打開す

へき國策の方針を理解せしむるに於ては、一億同胞必ずや明朗激進、
必勝の信念を堅持して、國體護持の氣魄を新にするであらうことを信
ずるのであります。

三 生産の急速増強

生産に従事する銃後一億の反省發憤を要する、蓋し今日より大なるはないと謂はねはなりません、過般放送に於て、一億努力の最高峰は今日を惜いて又こないであらうと、申し述べたのも之か爲てあります。

軍需としての船舶、兵器、彈藥、器具、機械、航空機か、其質量に於て、假令敵に匹敵する程度に製作補給し能はざる迄も、少くとも、精神的に敵を呑むて敢闘する第一線將兵希望の點に達せしめ得ることは、何としても直接之れが製作に當り又は製作原材料を提供する、工場、鑛山、事業場に關係ある資本家、經營者、技術者及勞務者の責任たることは申す迄もありません、然し是等一連の業務者を其職

如く施策すべき生産行政の部に携る官憲の事務的處理か、徒に繁瑣にして決戦化して居らず又は其各歩調が整はず、甚しきは工場事業場の内部に於て相扞格するか如き事態が存在するに於ては、皇國興亡を左右する戦争の勝利を妨ぐるもの、寧ろ官憲なりと謂はれても辯解の辭無きに苦しむの憾が深いのであります、政府即ち此に鑑み極力改善に努力しつゝありますか、今や時局打開の爲決戦展開を急ぐの要切なるの秋、機構の改廢に依り戦力の増強を妨碍するの不利は極力之を回避すへき必要を認め、事務的處理を一元化することに依り焦眉の急需に應せむことを企圖しつゝあります、各位も亦宜しく此間の消息を

把握し、中央と協力し、其擔當區域に於ける生産の急速増強を積極妥當に推進せられたいのであります。

生産の急速増強は、主として現業に従事する勞務者の勉否に依り左右せらるゝこと亦贅する迄もありません。而して前述致しました通り、一億同胞は事態の眞諦を能く認識せる場合翻然として發憤すべきこと申す迄もありません。然し之に加ふるに毎に血と涙を以て嚴肅なる指導と温情ある取扱を勵行し、勞務管理の全きを期するにあらずれば、如何に機構、人員を整備しましても成果を期待し得ざることば申す迄もありません。是等の點に關し中央地方に於ける官廳の努力未だ甚だ充分ならざるものがあります。各位に於ても一段の努力を拂はるゝ

様希望致します。

尙時局下下より盛り上る國民運動の強力なる推進と相俟つて、忍苦耐難の裡官民一般の戦意昂揚と生産の急速増強を急要と致しますか、忍苦耐難も生活面に於ては自ら一定の限度があり、時は窮乏の裡に能く人間最後の努力を傾倒せしむることも可能ではありませんか、官憲は一般同胞に對し要望する反面に於て又與ふることに十分の配意を用ふるこの緊切であることは、各位の夙に熟知せらるゝ處であります。就中食糧に於て其然るを認めねはなりません、最近都鄙を通し話柄が例外なく食糧問題以外に出でざる現状にあるは、實狀が未だ官憲所希の點に達せざること遠きを雄辯に物語るものであり、大消費地に於て

特に甚しいのであります、政府に於ては極力現状是正の方途を講じ、必要程度の生活態様確保に努力する覚悟でありますか各位に於ても行政協議會の積極的運営等に依り縣プロツク制等割據的慣行を撤廢し、一億に厚薄なからしむる様配給面の改善に關し努力せられむことを希望致します。

然し食糧は配給面改善の外特に増産が必要であります、増産の爲内地に於ては最早農地造成の餘地が無いにしても、各種の農事改良と空閑地を利用する等、多くの資材を使用することなしに増産を徹底せしむるの餘地尙存するものと信じます、特に戦況の推移萬一有利ならず南北の交通不如意の状態を招來する場合に於ても、日滿支を通ずる地

域及南方地域夫々の自活自職態勢を促進し置くの必要に鑑み、政府に於ては特に日、滿、支の開發を重視する方針なるを共に鮮滿支の農業開發に關しても舊來に比し更に努力を傾倒する考であることを御記憶願ひ、人員資源漸次逼迫に向ひつゝ、ありますけれども之に關し今後相當の協力を寄與せられたいのであります。

四 國土防衛

神州は古來未だ嘗て敵の蹂躪に委ねた事ありませぬ。由來外征は固より忠勇無比なる皇軍將兵の善謀奮戦に信賴するの外なく、又之ある以上敵の兵氣如何に驕ることも、皇國本土を侵すことは決して容易の業てはありますまい。然し過去に於て元寇の歴史もあることす、萬一にも非道米英にして皇國本土を侵す場合、不幸其蹂躪に委することもあるございましたならば、我等一億何の顔ありて祖先に見えることが出来ませうか。

皇國は鑿國の昔より國民皆兵、兵農一本であります。中世兵農自ら二つに分れたるは、畢竟國體の本義を辨へざりし武門武士私的鬪争の

變態的現象に外ならなかつたを見るへきてあります、是に於てか我等
一億は一億軍需の急速増産に努力して皇軍の善戦に貢献し、依つて以
て皇國本土を間接に防護すへきてありますか、萬一にも本土に敵の侵
襲を見るか如き場合に於ては、老も若きも又男子も女子も、各、其持
場々々に於て敵の侵襲を撃退する爲、一切を捧げて敢闘すへきは申す
迄もありません、是れ即ち政府か、國民總武装の必要を叫んだ所以で
あります。

國民總武装とは精神的に決戦の覺悟を堅確に保持することを第一義と
し、一億同胞が其職域に於ける御奉公を通し戦争参加の自覺を認識体得
し、戦争間自己の環境に發生する凡有事態に對し善所することとあり
ます、而して一旦戦火が本土に及びました場合に於ても内地防備の皇